

令和 6 年度第 3 回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日 時：令和 7 年 3 月 3 日（月）

13 時 00 分～17 時 00 分

場 所：青葉区役所 7 階会議室

出 席：青木委員長、小川副委員長、荒井委員、
齊藤委員、田口委員、丹治委員

※過半数の出席により委員会成立

1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会委員長 青木 ユカリ

3 議事

(1) 議事録署名人選定 小川副委員長

(2) 令和 7 年度まちづくり活動助成申込事業 事業計画説明会

◇各団体プレゼンテーション

◇質疑応答、意見等

① 一般社団法人芭蕉の辻まちづくりの会

委員 収支決算について何う。1、2 年目と比べ 3 年目の予算全体が増加しており、市の助成金収入についても 1、2 年目と比べ、20 万円増額して申請しているようだが、団体としては、収支の面で自立していくために、どういった取組みを考えているか。

説明者 講演会による参加費収入の増加や、支出面については、精査を徹底することに加え、無償で使用可能な会議室を利用したりなどして支出削減を行い、自立的な運営ができるよう努めたい。

委員 助成終了後の活動計画に、募金活動を行い、これを絵画展の費用と学校側への謝礼に充当することは継続する旨の記載がある。これは収支決算上、金額的にも大きいものではないと思うが、どういった費用か。

説明者 募金については、七夕まつりにおける募金活動で、観光客へ観光案内を行った際のお礼として、わずかだが募金をいただいているものである。その使い道としては、毎年短冊の製作や、参加した学校へのお礼として、学校で使用する消耗品等の寄付となっている。

② 一般社団法人～東北を明るくする～仙台ストリートピアノ協会

委員 昨年度の課題として、時間帯によっては演奏者が少なく、来場した方を待たせてしまうという場面があったようだが、今年度その課題に対して工夫したことがあれば教

えてほしい。また、フォーラス前の利用料が 55,000 円とあるが、他の場所での利用料はいくらかかるのか。

説明者 昨年度は国際センター駅という学生が多い場所で日中のイベントを行ったが、ピアノを設置しても演奏者がいないことがないようにするための工夫として、今回は人通りの多いフォーラス前や祝日を利用してのイベントを多く企画している。仙台朝市商店街については、朝市からの要望も踏まえ、ストリートピアノの設置を通して、商店街の魅力をアピールできるような取組みができないか考えている。フォーラス以外の利用料については無料の見込みである。

委員 1 ピアノの設置費用等について設置場所の関係者から負担してもらえるような仕組みがあると、今後事業が継続しやすいのではないかなと思う。

委員 2 ストリートピアノという性質上、仙台朝市商店街で実施する際、天候の影響を受けやすいかなと思うが、雨天時などの場合はどのように対応するのか。また、収益性を上げるため、キッチンカー等を検討されているようだが、近隣で同じような商売をしている方とのバランスについても、考えていることがあれば教えてほしい。

説明者 仙台朝市商店街については、営業していない店舗の一部を借りて、シャッターを開ければピアノが弾けるというような環境を作ってもらえるよう相談中である。キッチンカーについては、現時点ではフォーラス付近ということで検討しているが、競合しないよう関係商店街とも調整しながら進めたい。規模的には1～2台程度キッチンカーの設置を見込んでいる。

委員 協賛金の募集については、どのようなアプローチを考えているか。

説明者 仙台朝市商店街や、藤崎百貨店に協力していただくことを考えている。藤崎百貨店については、昨年12月に協賛いただいた実績がある。

委員 1 支出の面では、例えばピアノの運送費用は、実施回数に比例して大きくなると思う。協賛金や出店料、グッズ販売等、収入の構造を変えていく取組みをされているようだが、必要な費用を関係する人たちがどのように負担していくか考えていくことも必要かなと思う。

委員 2 ピアノの運送費用といったことを考えると、できるだけ長い期間ストリートピアノを設置できる場所を確保していくことも重要と思われるが、仙台朝市商店街に設置することについて、感触はどうか。

説明者 仙台朝市商店街では、平日から土曜日までの期間でストリートピアノの設置を見込んでいる。まずは設置してみて、商店街を訪れる方に認知してもらおうということをやっていきたい。その反響次第では、長期間の設置等、その後の展開も考えられるかなと思う。

③ 関山街道フォーラム協議会

委員 2点伺う。1点目は、ワークショップについて山形と仙台で2回開催するということだが、具体的な内容について伺いたい。2点目は収支の部分で、繰越金が予定されているが、その内容について伺いたい。

説明者 1 点目のワークショップの内容だが、2 年前に 1 度宮城県で行った際、40 人ほどに参加してもらったが、広瀬川や仙山線、関山街道について、4 つのグループで意見交換をしてもらうといった内容のワークショップを開催した。今回も同じような形で地域の魅力を参加者の皆さんで語り合ってもらった上で、何ができるかといった話を、ワークショップで実施したいと考えている。2 点目の予算の繰越については、さくらプロジェクトの活動の中で看板を設置する必要が発生した場合や、活動に関する冊子を作成する場合等、まとまった予算が必要になるような場合に備えて準備をしているものである。

委員 前年度の課題等への対応ということで、ルート登録が実現した場合における自治体負担金の予算化とあり、これは今後大事になってくると思うが、今の段階で、例えば自治体での事例等、把握しているものはあるか。

説明者 現在登録されてるのは、21 ルートあるが、高齢化や予算等の問題でなかなかうまくいってないルートもある。自治体による負担金については、例えば国道 113 号にある、みちのくおとぎ街道については、関係する自治体が予算を組み、いろいろな企画を実施しているようだ。他には、のしろ白神の道では能代市等がバックアップしているケースがある。全国における他の好事例も参考にしながら、できれば関山街道がモデル地域のような形でやれればと考えている。

委員 山形方面にも活動を広げていきたいということだが、公民館との連携についてはどうか。

説明者 天童市内の公民館とは、会議場所を貸してもらったり、フォトコンテストの写真を展示したりといった形で連携している。何かアクションを起こし、つながることでお互いに理解を深めていくようなやり方もあると思っている。他にも東根市から公民館を紹介してもらうなど、少しずつ連携の幅は広がっているのではないかとと思っている。

委員 とても素晴らしいことだ。社会教育施設はこういった活動に対して積極的に関わるべきだと思うので、うまく連携していけると、そこからまた広がっていった横の繋がりも出てくると思う。ぜひ頑張ってください。

説明者 学校関係、例えば、小学校や中学校とは連携できるようなイベントがあるとよいかなと思う。昔桜を植えたときには、小中学校と連携して実施したことがあるが、そういった連携があると良いと思う。

委員 地域の素材は学校がとても大事にしていることだと思う。そこをうまく子供たちにも繋がるような内容を展開してもらえると、今お話したような繋がりを作っていけるのではないかな。

④ 特定非営利活動法人 水・環境ネット東北

委員 今回受講生の募集は 20 名を予定しているとのことだが、基本的には新規の受講生か。また、1 期生に対するフォローアップや補講といった場合の参加費はどうなるのか。

説明者 補講として受ける方については通常の参加費を徴収する予定だ。ただし、資料を既

に持っている場合についてどうするかは、今後検討していきたい。

委員 参加費については団体にとって貴重な収入源であると思う。また、参加費の金額については、アンケートをとって検討するということも考えられる。その辺については何か考えはあるか。

説明者 保険料は徴収しようかと考えている。参加費については、毎回ではなく、講座ごとに最初一括して徴収するという形も検討している。

委員 1 体験型の講座や、保険が必要な活動を行っている団体は他にもあると思うので、運営方法については他の団体も参考にされてみるのもよいと思う。

委員 2 ガイドボランティアを育成していくためには、養成講座も大事だが、現場での実践の機会も大切であると思う。昨年修了された方がいらっしゃると思うので、少しずつそういった機会を作っていくことも、ぜひ検討いただきたい。せんだいメディアテークの映像アーカイブで、四ツ谷用水、四ツ谷堰関係の映像資料を、ネット上で見られるようになっているようなので、そういったものもぜひ活用してはいかがか。2年目の受講生が増えていくよう、頑張っていたいただければと思う。

委員 3 ボランティアガイド用の解説書について、支出に占める割合が高いと思う。基本的に、このガイド用の解説書の用途は、参加されるボランティアガイドによる使用を想定しているのか。ボランティアガイド向けの解説書以外の用途としては、どういったものがあるか。今後改訂版の作成等を検討しているのであれば、紙面以外の媒体も考えられるかと思うが、検討しているものはあるか。

説明者 資料、テキストについては、四ツ谷用水について基本的な情報がまとめられている。講座を受けたボランティアガイドのための資料という趣旨で作られており、掲載されている図面等の著作権については、テキスト用として許可を受けている関係で、一般的な販売は考えていない。

⑤ みやぎに人形劇場をつくる会

委員 事業内容の「人形劇ラボ」「まちがい劇場」について、どういった取組みなのか教えてほしい。昨年度は参加者自身が人形劇を作っていくことで、参加というところに力点があったかと思うが、その点はどう変わるのか教えていただきたい。

説明者 「人形劇ラボ」は、日常生活にある色々な素材を使って人形劇を行うことで、既成の人形というものにとらわれない自由な発想を、その時間の中で楽しめるというものである。「まちがい劇場」は、参加者に、数ある人形の中からランダムに選んでもらい、2人ないし3人の人形を使って、何のストーリーもない即興的な人形劇を作っていくものである。

説明者 この「まちがい劇場」とは、普段言えないことなどについて、人形を介することで積極的なコミュニケーションが生まれていくというものである。

委員 「人形劇団ひばりあむ」による人形劇の鑑賞は、その前段のワークショップとどのように関連してくるのか。

説明者 子どもの自由な発想を大切にしている「人形劇団ひばりあむ」による人形劇を、

ぜひお子さんに鑑賞してもらいたいと考えたためである。

委員 2年目ということで、やはり1年目からのつながりや、それから1年目で培ったものは生かして欲しい。今回対象としている参加者や、一般の方に対して、今回の演劇のすばらしさを理解してもらえよう、どのように宣伝していく予定か教えてほしい。

説明者 人形劇の宣伝の仕方については、お母さんから小さいお子さん、お年寄りまで幅広い世代に興味を持ってもらえるようなチラシを、演者の方と一緒に検討し、宣伝していくつもりだ。

委員 今回の助成事業についてよく話を伺っていくと、コミュニケーションツールとしても優れている人形劇のように感じたが、一般の方にとってはそれがわかりづらいようにも思われたので、そのあたりをわかりやすく伝わるようになるとよいと思う。人形劇3回の実施については、いずれもつながりがあって連続して参加する必要があるものなのか、それとも単回の参加で理解できるのかということか。今回は昨年度と違う目的で申請されているかと思うので、今回の到達点としてはこの3回全部を実施することで達成できるのかどうか教えてほしい。

説明者 単回の参加で理解可能な内容となっているが、2度3度来ていただけるよう3回企画しているものである。

委員 去年は親子で参加してくださったりして、その過程の中でコミュニケーションや、そういったものを大事にするという、そういうところで微笑ましいし、なかなか成果もあると思っていたが、今回は、そういった成果というところで、ハードルが高いのではないかと感じた。今回の助成金の用途は、演者への謝礼でほとんどを占められているが、ワークショップ以外では、例えば何か市民がコミュニケーションできるスペースを作ること、前回参加した人と、そのあともつながりを持てるような、そして参加者の規模を大きくしていけるような取組みを行うといった予定はあるか。

説明者 ワークショップに参加した方々で、引き続きまた人形劇をやっていきいたいという方がいる。参加者同士がコミュニケーションできる場を作っていくのも大事であると思っている。例えば今回企画しているように、ただモノがあり、自由な発想をそこに反映させてください、というと急にハードルが高くなったように思われてしまうところだが、確かにあると思う。実際にいきなり作品を作ることが自分にとってはハードルが高いと思う人もいるだろう。しかしハードルが高いとは一体何だろうということ、それすらも題材にして研究してみようという内容になってはいる。

⑥ 特定非営利活動法人 作並・新川地区活性化連絡協議会

委員 郵便ポストのラッピングについて、事業活動のスケジュールでは12月となっているが、作並地区では雪が積もってきて、なかなか交通量も減少してくる時期かと思われる。作並地区で交通量が多いのは、さくらんぼの時期や、夏・秋ごろかなと思うので、もしこれを実施されるのであれば、もう少し早い時期に実施した方が、交流人口の拡大というところが見えてくるのではないかなと思うがどうか。

説明者 今お話いただいたように、作並では、今朝も雪が降っており、非常に寒い朝を迎え

たところである。確かに早い時期に決めて実施をしていければと思う。ただし、公募を行う場合、時間をとる必要もあるため、そのあたりとの兼ね合いも考えながら検討したい。

委員 今年度力を入れていったウォークマップの作成、増刷活用、ホームページの改修とといったことについて、来年度はどのようにお考えか。

説明者 ウォークマップは今回増刷したほか、ホームページについてはウォークマップの詳細を見れるように改修した。マップを作って終わりとは考えておらず、そのマップを利用した中で、3つのコースについて、市民の方、地域以外の方も含めて、一緒に歩くような、そういったイベントをやりたいと思って作った部分もある。そこの10ヶ所にポイントとして、看板を2年かけて設置したところだが、計画段階ではあるものの、看板と一緒に写真を撮って、それをウォークラリーのようなイベントを新年度に実施できないか検討しているところだ。マップについては作並駅や観光交流館などいろいろなところに設置しているところだが、非常に人気で、在庫がなくなったという話も度々いただいている。それを持っていってもらうだけではなく、その道を実際に歩いていただけるような企画を、市民とともに考えていきたい。

委員1 これまで様々なノウハウを培って作られてきたものだと思うので、そういったウォークマップを生かすことについても考えていただけたら嬉しい。

委員2 今回新しい取組みである郵便ポストのラッピングについて、予算のところには、20万円弱で1つ科目が書かれているが、その内訳について教えてほしい。

説明者 作並郵便局の前に設置しているポストにラッピングをする場合、大体どのくらいかかるのか業者に確認した金額となっている。希望としては、ポストの上にこけしを乗せたり、むすび丸が乗っているようなものを作りたいのだが、それをする、さらにお金がかかりそうなので、ラッピングだけでそのくらいの金額がかかるという見積もりである。

委員 表現する中身のアイディアについて募集し、それをデザイン化して、ラッピングを行うといった業務一式を業者に依頼するような形を検討しているのか。

説明者 公募という形で広報することも話としては上がっているが、詳しい方法はまだ決まってはいない。

⑦ 台原地区の防災を考える会

委員 初動キットについて伺う。熊本大学の事例なども参考に開発したとのことだが、仙台市でも各指定避難所に同じようなことを目的とした表示や避難初期に必要なものについて、まとめて準備しているのではないかと考えていたが、その違いについて教えてほしい。

説明者 学校の運営者や避難所運営委員会といった関係者、予備知識のある人が初動で利用できるようなものではなく、例えば住民ではなく、そこを通りかかったような人が避難した場合でもなお、初動で利用できるようなキットを想定している。

委員 実際の避難所の運営を考えたとき、通りかかった方がそれを使ってというイメージ

がつかめなかったため教えてほしい。

説明者 それも含め新年度に調査を行い、使用実績のある自治体がどのようなノウハウを持っているか等について調べたい。

委員 1年目もいろんな実態調査をされていたようだが、2年目はさらにいろんなことを試行錯誤して、市民だからこそできる、学校や地域のくくりにとらわれず様々なことにチャレンジするということなのだろうと思った。特に在宅避難で、どの地域のどの家庭でも必要なものではあると考えられるが、実際には、台原も含めてまだ各家庭に浸透してないように思う。地域の皆さんが自分たちでまず自分の地域の周りから在宅避難のことを呼びかけるような行動を取ることはとても素晴らしいと思う。今年度も小学校と中学校との連携や、町内会との連携は進んでいるのか。

説明者 在宅避難について調べていく中で、実は指定避難所について、どのような地域でも一定数の食料しかストックされていないということがわかった。概ね400名が2日間過ごせるくらいの量しか、すべての指定避難所にはないようだ。台原世帯では、登録されてるだけで1万世帯あり、まずは避難所へということになると混乱が生じる可能性がある。今後は、仙台市の危機管理局でも、在宅避難にもっと啓発の力を入れていくという話も伺っているところだ。そして小学校や中学校向けのイベントとしては、今回小学校では1学年のみ、そして中学校では生徒のみだったが、実は中学校の保護者から、ぜひ一緒に学びたかったという声があったため、次年度はぜひとも保護者も一緒に参加できるようにと考えており、小学校では全学年で実施したいと考えている。そして町内会では、高齢の方や、お子さんがいる方でも体験できるようにと考えている。

委員 かなり深く調査研究されているようで、非常に具体的にイメージできた。避難所運営について、台原地区の町内会に対して、何らかの負担をしてもらったり、理解を得てもらうための検討はされているか。

説明者 台原地区に限ったことではないが、高齢化等に伴う避難所運営の担い手不足は、様々な地区で発生しているようだ。この台原のモデルが今後仙台市内に幅広く、または仙台市内に限らず、今後我々の世代に対して、広くモデルになったらいいという希望を持って、一生懸命細かいところを調査している。すでに新たな方法を模索して先を走っている団体もいるので、そういったところともっと細かく情報共有していきたい。

委員 町内会で実施する場合は、こういった場所での開催を想定しているのか。

説明者 町内会が持っている集会所を使用したり、また市民センターとの共催により実施するなどして会場費を削減できればと考えている。

委員 それぞれの団体で既存の計画があったりする可能性もあると思うので、そこは調整して、一緒にできることがあるのかもしれない。開催時期の計画については、連携している団体と今後調整しながら進めている形か。

説明者 それぞれの団体や組織の人事異動もあるため、計画通りに動かないということも大いにあり得ると思うが、今年度培ってきた各組織との繋がりもあるため、そういったものも活用を図りたい。

委員 計画に落とし込んだものを、そのとおりに行うというよりは、変化や調整を含めて

まさに防災力の向上になっていくのではないかと思います。皆さんの知恵を生かし合えば、いろんな力を引き出して、地域の防災力を向上できるのではないかと感じる。

⑧ 「お宮町」まちづくり協議会

委員 支出として講師謝礼及び交通費で 36 万円計上されており、事業費全体の約 6 割、また市助成金の約 7 割が使われている。実際の活動全体にはこういった形で必要になってくるのか教えてほしい。

説明者 講師謝礼及び交通費の内容としては、ガイドボランティアの養成講座を実施するにあたり、外部団体からの講師派遣を考えていたため、これに伴う費用が主なものとなっている。また、個性的な市民ボランティアガイドが特色となっている「まいまい京都」という、有名な郷土史家の方に引率してもらうのではなく、市民レベルの目線でガイドを行う、当団体にとって非常に参考となる団体が京都にあるのだが、その団体の主催者を京都から招くための交通費の部分が大きい。もし、直接招くのが難しいという場合は、例えばオンライン講義といった方法を考えている。

委員 収入の部のうちの参加費について、500 円を 20 名から徴収する計画となっているが、これはボランティアガイド養成講座の受講者から徴収するということか。

説明者 事業の活動スケジュールで先ほど説明したとおり、ガイドボランティアの養成講座を 3 回実施する予定であり、講義を受けた後、実際に参加者がコースを歩いてみるというもの。実際我々が作ったコースはどうかということで、一般の方にも歩いてもらうといった形で考えていた。

委員 参加費 500 円というのは、その一般参加の方から徴収するということか。

説明者 そのとおりだ。基本的には我々協議会の地元の宮町メンバーがまち歩きコースを作っていくための研修プログラムとはなっているが、我々が計画したものが一般にどのくらい通用するかということについて、一般の方にも参加していただく中で、意見をいただきたいという考えだ。一般の方については、20 人程度の参加を見込んでいる。

委員 前年度に参加費収入が 7 万 5,000 円とあるが、その参加費を徴収したのはどんなイベントだったのか。

説明者 前年度に実施したまち歩き講座のイベントである。座学とまち歩きをセットで、計 5 回実施したが、座学から参加した人や、まち歩きのみ参加の人、通して 1 日参加した人、すべて参加費 500 円で統一していた。特に 5 回目の講座が好評で、当初 40 人から 60 人の参加予想だったのに対して、約 100 人近い方から申し込みがあった。

⑨ 特定非営利活動法人グッドニュース・プロジェクト

委員 関わる方々が何かを生み出しており、皆さんの活動に対して理解や協力の輪が徐々に広がっている印象だ。そういったものを大事にしながら、令和 7 年度の計画を立てていると思う。この 1 年 2 年という中で、団体として少し先を見たとき、こういったことを目指しているのか。

説明者 依頼件数を増やしていくというよりは、いかに私たちと連携してもらえるかといっ

たことや、大きい団体よりも小回りがきくため、どこにも頼めなかったり、受けてくれなかったような、ややニッチな依頼を引き受けられる事業にしたいと考えている。

委員 皆さんが大事にしたいものはどこかということについて、しっかりコミュニケーションを取りながら進めているという印象だ。必要なことを学ぼうという皆さんの意欲もあるようなので、専門性を磨くというよりは、それを学んだうえで、どう周辺の方々と関わりを見つけていくのかということかと思われる。各機関と接続していく部分というところで、お任せできるところは既存の団体や関係機関との繋がりを作っていくところに、勉強会や交流会といったところがどう作用していくのかと感じた。

委員 支出の部で助成対象外経費については、自己負担2万6,000円ということでよいか。

説明者 そのとおりである。

⑩ ダンスサークル サンライズ

委員 団体としては、いつから活動を行っているのか。

説明者 サークルで始めようと考えたのは今回が初めてである。

委員 会則には、会計年度は毎年2月1日から翌年の1月31日までであるということなので、2月の段階でサークルとしては、13人の会員として始められているという理解でよろしいか。

説明者 そのとおりである。ダンスを通して認知症の予防や、コミュニケーションの観点から、一人暮らし世帯や認知症を防ぐような手助けを私たち会員が行うほか、月1回程度指導者を招いて、健康になるための講演会や講習会をやりながら応援していきたいと考えている。

委員 現在13人のメンバーがいるということだが、今後こういった形で他の方に参加を呼びかけていく予定か。

説明者 他のサークルとも交流があるため、そういったところから参加の呼びかけを広げていきたいと考えている。

委員 申請書には、Instagram等により広報を進めるという記述があるが、これはサークルの活動への参加を募ってくようなものか。

説明者 Instagram等 SNS を使ってダンスのすばらしさを伝え、メンバーを増やしていきたいと考えている。

委員 会費について、会則には会費2,000円を毎月例会日に収めるとあるが、これは年間2,000円なのか。それとも月額2,000円なのか。会則からすると、月額2,000円と思われるが。

説明者 年間2,000円の誤りである。また、支出の部について、講師謝礼は、2回ではなく正しくは3回である。

委員 仙台市内に市民センターやコミュニティセンターを活動場所とした自主的なダンスサークルはいくつも活動されてると思うが、そういった自主的なサークルとの違いは何か。

説明者 ただ楽しむためにダンスを実施するのではなく、専門的な資格を持った講師を招い

て講習や交流会を実施している部分が異なると考えている。

⑪ 錦ヶ丘ママのにこにこマルシェ実行委員会

委員 マルシェに出店するブースは28件ぐらいあると記載があったが、ハンドメイドの商品を作っている会員3人以外にも、いろいろな商品を作る会員はいるのか。

説明者 団体としては、実行委員会のメンバー3人で運営をしており、このマルシェに出店する方は実行委員ではなく、出店者という形になっている。

委員 毎回同じような方が出店しているのか。

説明者 毎回のように出店してくださる方もいれば、新規で出店される方もいるので、毎回、全く同じメンバーが出店するというわけではない。

委員 年に4回定期開催しているとのことだが、参加者はどのぐらいか。

説明者 始めたばかりのころは少なかったが、周知に力を入れてきたこともあり、最近では300人ぐらいとなっている。

委員 今回の助成金を利用して、何か新たな試みは検討しているか。必要な経費は出店料の中で賄い、売上げについては参加者の収入になると思うが、助成金を使って実施したいと考えた理由について教えてほしい。

説明者 もっとたくさんの人に、このマルシェを知ってもらうため、のぼりや看板を作ったり、マルシェのInstagramについて広告をまわしたり、フリーペーパー等に広告を載せたりしたいと考えている。もう1つは、子連れのママの参加が多いため、ワークショップや今回から新たに始めたスタンプラリーを行う際などに、お子さんを預かってもらえるような、託児の有償ボランティアに費用を充てたいと考えている。

委員 広告関連の費用等について新たな試みも検討されているようで、親子をはじめ、多くの皆様に来てほしいという思いが伝わってきた。もう1点気になったのが、ママ作家さんだけでなく、パパやそのご家族、ご家庭というところについてはどうか。

説明者 ママだけということではなくて、もちろん男性の方もいらっしゃる。特にママじゃないと出店してはいけないということではないが、どちらかというとママ作家さんを応援したいと考えている。

委員 2022年6月から実施したようだが、マルシェを始めたきっかけは何だったのか。

説明者 きっかけは、実行委員の1人がペタペタアートという、ハンドメイドの講師をしており、その方と私とあともう1人の実行委員の方が友達で、ヒルサイドモールに一緒に出店しないかという声をかけて、最初は4、5人ぐらいが集まった。平日の幼稚園がやってる時間帯ぐらいに少し出店するといったところから始まり、だんだん出店数が増えていき、日曜日に開催したり、Instagram等を始めて出店も広く募集するといった告知の活動もするようになって、今に至っている。

委員 基本的にはマルシェを、今やっているようなスタイルで今後も同じように続けていく上で、来場者を増やすために今回広報に関して手厚く対応したいということかと思う。今後の運営体制について、実行委員会のメンバーを増やしていきたいといった考えはあるか。

説明者 実行委員会を手伝いたいとか、やってみたいという方がいれば、増やしていきたいと考えている。出店者もだいぶ増えてきて、開催にあたっての準備や作業も増えてきたところだ。

委員 こういった催しを参加型で作っていくということも、まちづくり活動の観点からするとプラスに働くかと思う。皆さんの参加の機会を増やしていくような取組みについて、運営の部分でも視点として持っているとういことかと思う。

説明者 チラシの配布や、インスタグラム等の SNS による告知を行うと、皆さん協力してくださる方が多い。

委員 支出の部のところに、福祉団体 1 ブース分の費用を計上しているが、これはどういった費用か。

説明者 出店料は実行委員会が負担する形で、福祉団体にも 1 ブース程度出店してもらおうという取組みだ。過去に、パンと焼き菓子販売の福祉事業所に出店をお願いし出店料は徴収しないということで行ったことがある。また、スタンプラリーの景品を福祉事業所で製作しているキャンドルを購入し、景品に充てたこともあった。

⑫ 八幡町商店街ファンコミュニティ（八幡町商店会）

委員 支出の部にマップデザイン印刷費が 50 万円とあるが、この内訳を教えてください。

説明者 外注するため、内訳まではわからないが、なるべく多くの数を作りたいと考えている。区民まつりでもぜひ配布したい。

委員 翌年度以降の事業継続の可能性はないとのことだが、展望があれば教えてください。

説明者 商店街サミットという企画を行っており、2016 年から毎年 1 回、商店街が集まっていろんな事例の共有をしている。その中でこういった事例を共有できれば、他の商店街の参考にもなると思う。

委員 ショート動画については、学生さんが取材に行って、デジタルコンテンツも作って、そして具体的に実施まで行うということか。それとも取材、動画編集、撮影、印刷、校正して作るところのコーディネートも含めて誰かが実際に動くのか教えてください。もし委託先の業者が決まっていれば教えてください。また、学校側にはもうすでに話をしているのかも教えてください。

説明者 委託先はまだ決まっていない。学生は動画を作るところまでやってもらう予定だ。そこは学習の一部であり、探究学習、あるいは地域学習、あるいは東北福祉大学であれば、来年度から共生まちづくり学科という学科が新設されるため、その学習の一環として、動画やコンテンツを作ってもらうというところまでを想定している。

委員 助成金でなく、商店会として実施するために予算化されたりはしないのか。

説明者 予算化したいところだが、もともと商店会の予算が少ないため、そこまでは回らないというのが実情だ。

委員 この 50 万円は現実的な委託先に支払う金額としてやっていけるのか気になるところだ。マップのデザインや枚数といったところの計画もない。デジタルコンテンツについては、実際にもう商店会の YouTube やインスタグラムアカウントがあり、そこに

掲載していく想定か。

説明者 そのとおりだ。

委員 今回作成を予定しているマップは、どのくらいのサイズ感を考えているのか。

説明者 商店街とそのまち歩きを加えるとなると、ある程度の大きさが必要なので、A3 判くらい、もしくは見開きだとか、蛇腹折りという感じになると思う。コンテンツの中身にもよると思う。

委員 情報量が多くなりそうな感じがしたので、一定程度のサイズ感の想定は必要かと思う。でき上がったマップの活用方法としては、先ほど区民まつりで配布をしたいという話があったが、その他にはどういった配布先を想定しているのか。

説明者 商店街のイベントがあるので、夏祭りや七夕まつり、SDGs ハロウィンといったイベントで配布したい。また、各商店の店頭に並べるということを考えている。

委員 商店会の皆さんから、作成にあたっての支援は受けられそうか。

説明者 商店会の年会費を徴収しているため、その中からは支出するという形になる。

⑬ 西公園プレーパークの会

委員 会の運営に、若い方にも参加してもらいたいという話が出ていたかと思う。相撲に関しては東北大学の学生さんの協力があるとのことだが、7月の開催ということで、プレーパークの開催日に合わせて、7月に何回か実施するイメージか。

説明者 1日だけの実施を想定している。土曜日に実施し、予備日を日曜日にするという形だ。

委員 大人も一緒にいれる空間としてというようなイメージであろうか。それと同じような発想で6月と9月にもイベントとして行うイメージか。

説明者 そのとおりだ。

委員 何回か実施するイメージか、ここにはミニバスケット、かけっこや鬼ごっこ、このあたりに関わる若者の方々というのは、見通しは立っているのか。

説明者 かけっこの方はプレーパークで20年やってるので、もう大人になってる人達がやってくれると思う。あとバスケットについても、今バスケットを中心になってやっているのは中学生、高校生がやっているが、その子たちに声かけるのと、プロの経験者にお願いしたいと考えている。あとはバスケットの少年団の講師たちと知り合いなので、声かけしようと考えている。ある程度本気のバスケット競技にならないよう、楽しんでやりたいと思う。

委員 日頃の協力者、あるいはそこで実践して皆さんとともに作り上げていくイメージかと思う。近年は少年団や塾等、スポーツ自体がお金を払ってお稽古でやらないといけない時代だが、気軽に公園の中でこういった活動ができる環境を整備するということに、費用が使われるのかというイメージを持っていた。西公園の整備費についてはどうか。他からは出ないものか。

説明者 市から設置管理許可を受け、共用施設、体験学習施設としてのプレーパークを私たちが設置しているが、設置者が全て費用を負担することになっている。相撲場やミニ

バスケットボールを作ってから少し時間が経ってるので、そこにもお金使わせていただきたいと思っている。

委員 広報用のチラシに関して、その配り方や、これ以外の PR 方法等、何か考えはあるか。

説明者 普段から近隣の小学校と連携しており、まずは近隣の子供達に対して配ろうと考えている。他にはブログ、ホームページ、インスタグラムといったところで広報していきたい。

(3) その他

4 閉会

以上の内容について、相違ないことを認めます。

署 名 人 _____

議長（委員長） _____